ASAMA ONSEN GUIDE MAP

浅間温泉散策マップ

N

浅間温泉泉質

アルカリ性単純温泉
(アルカリ性低張性高温泉)

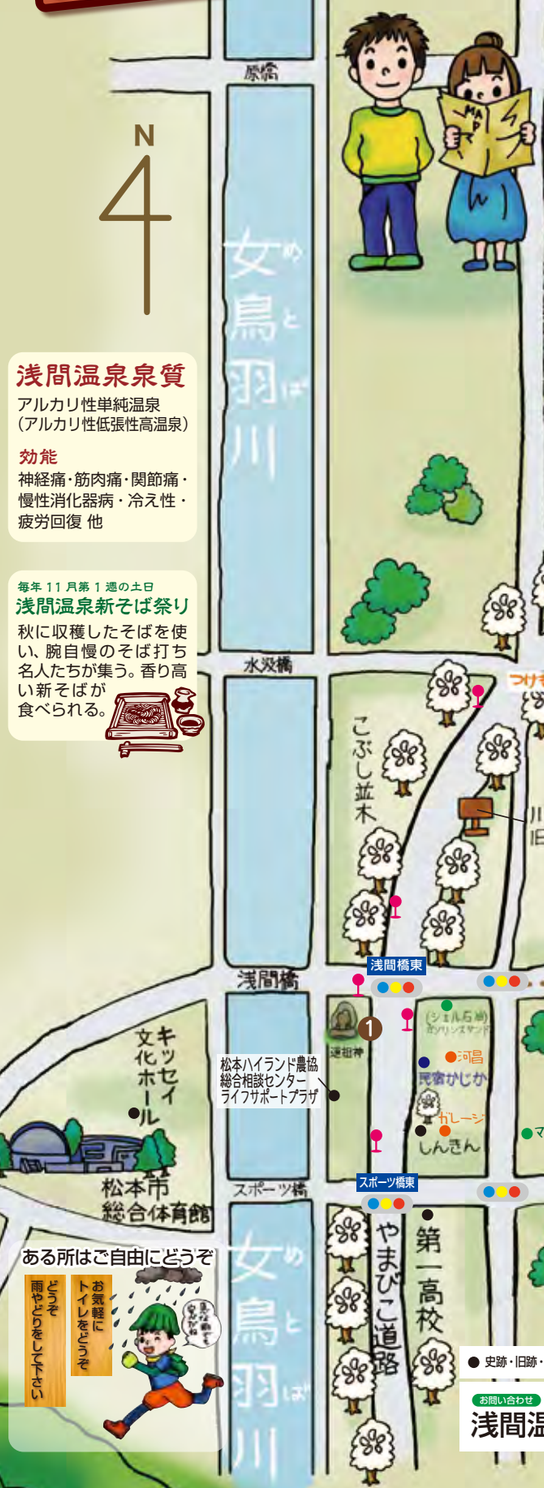
効能

神経痛・筋肉痛・関節痛・慢性消化器病・冷え性・疲労回復 他

毎年 11 月第 1 週の土日

浅間温泉新そば祭り

秋に収穫したそばを使い、腕自慢のそば打ち名人たちが集う。香り高い新そばが食べられる。



浅間温泉の文化とアート、歴史を巡るらくらく

ウォーキングコース

約1時間〜1時間半

浅間温泉街 ➡ 神宮寺 ➡ 御射神社 ➡ 小笠原廟所 ➡ 天満宮 ➡ 湯薬師 ➡ 西宮恵比寿神社(不動院) ➡ 浅間温泉街

眺望抜群の

トレッキングコース

約2時間

浅間温泉街 ➡ 御殿山登山口 ➡ 御殿山(見晴台) ➡ 天満宮 ➡ 小笠原廟所 ➡ 浅間温泉街

浅間温泉たいまつ祭り

浅間温泉に古くから伝わる奇祭で、御射神社秋の例祭。五穀豊穣と人々の安泰を願い、里の春宮におられた氏神様が、採り入れ後の麦わらでつくったたいまつの煙に乗って、4kmほど奥の秋宮に帰られるという奉納行事です。毎年10月第2土曜日に実施。

ある所はご自由にどうぞ

どうぞ雨やどりをして下さい

お気軽にトイレをどうぞ

● 史跡・旧跡・公園・公共施設　● 旅館・ホテル・日帰り温泉　● 飲食店　● 商店　1〜10 道祖神　裏面に道祖神の写真があります

お問い合わせ
浅間温泉観光協会
長野県松本市浅間温泉 2-6-1 FAX:0263-46-0200
TEL:0263-46-1800
http://asamaonsen.jp/

2017年10月作成

浅間温泉散策ガイド

浅間温泉の名所・旧跡

●守屋貞治の延命地蔵

見る人をとりこにする
名工の地蔵

見る者をたちまち魅了してしまう深い魅力を持ち、願いがかなうと評判で参拝者が絶えない地蔵。作者の守屋貞治は、江戸時代に全国各地に出向いて活躍していた高遠藩の石工の１人。県内外に残されているこの名工の作品約340体の中でも指折りの秀作。石垣の外にある“じっさばばさ石”もユニーク。

●神宮寺

明るく賑やかな
お墓を提案

松本城主水野忠直の母・清陽院により建てられた薬師堂には、本尊の「薬師如来座像」(松本市重要文化財) が納められている。今までの寂しく暗いイメージの墓から、明るく賑やかな墓へと考え方を提唱する寺でもある。本堂にある『原爆の図』を描いた丸木位里・俊夫妻の大胆な襖絵は、一見の価値あり。

●神宮寺境内の歌碑･句碑

文学碑をたどって
楽しむ散歩道に

神宮寺境内には、与謝野晶子が上高地からの帰途に浅間の宿で詠んだ「たかき山　つつめる雲を前にして　紅き灯にそむ浅間の湯かな」の歌碑が建つ。また子規の門下で浅間温泉に療養していた上原三川による「五月雨や　山の温泉（いでゆ）のさざ濁り」の句碑や村長でもあった高橋玄一郎の詩碑がある。

●神宮寺の薬師堂

ヒノキ一木造りの古仏
薬師如来像

まつられている本尊は高さ74センチの薬師如来像で、ヒノキの一木彫り。藤原時代後期に作られた神宮寺創建当時の古仏でもある。延宝２年（1674）松本城主・水野忠直の母清陽院の願いでこの寺にお堂を建てた。ところが昭和23年、飛び火により類焼。10年後、平安後期の御堂形式に復刻されている。

●御射神社春宮

温泉街を豪快に練り歩く
たいまつ祭り

浅間社と呼ばれる由緒ある古い大社で、現在では毎年10月に「たいまつ祭り」が行われる。火の粉が飛び交うたいまつを、男たちが担いで豪快に温泉街を練り歩く。豪壮な火焔太鼓が響き渡る秋の夜祭り。担ぎ手のすすだらけの手で顔をなでられると、１年間無病息災でいられるという。

●小笠原家廟所

五輪塔が伝える
戦国動乱期の史実

松本城の基礎を築いた城主・小笠原貞慶と、秀政・忠脩父子の三人を祀っている。父子は元和元年（1615）５月７日「大阪夏の陣」に徳川方として参戦し、死を遂げた。現存する五輪塔は、水野忠直松本城主が御霊屋とともに建立したもの。御霊屋は後日焼失したが、忠脩の遺骨が埋葬されている。

●御殿山の天満宮

菅原道真を守護神に文教の
神として祀る

万治２年（1659）、松本城主の水野忠職（ただもと）は、安曇の大野川大樋山から多くの白銀が発掘されたことを喜び、浅間御殿を改修し守護神として天満宮（菅原道真）を勧請。歴代城主は文教の祖神として崇敬し続けた。本殿は屋根と基部を除いては創建当時のまま。優れた建築技術を見ることができる。

●湯薬師

浅間御殿もここから
引き湯した源泉

ここは古くから湯が湧き出ていた場所で、浅間の湯の恵みを見守り続ける源泉。万治２年（1659）水野氏が浅間御殿を改修した時、湯谷社を祀って「湯薬師」と名づけ、ここから引き湯していで湯を楽しみ、薬師堂もあった。お堂は明治13年の大火で古仏の本尊とともに焼失してしまい、後に再建されている。

●西宮恵比寿神社

開運招福・商売繁盛の
福の神

商売の神様である“えべっさん”。浅間温泉には明治24年、摂津国西宮神社より勧請し、西宮講社松本事務所として始まったのがもとになったとある。社殿は大正14年に今とは別の松本市深志三丁目に建てられていたが昭和27年に本殿を今の浅間温泉の地に建立し28年に幣殿、拝殿社務所を増築した。

●不動院

参道には
三十三番観音の一部も

江戸時代、上浅間の三才山（みさやま）道の傍にあった不動院は明治４年に廃院となる。ここの不動院は昭和15年に宗教結社。本尊の不動明王は眼病と火の災いに霊験あらたかと言われる。悪を断じ善をすすめ、修行者を守るとある。木々に包まれた小道は、四季の彩りを映す風情がある。

●桜ケ丘古墳　金銅冠

太古のロマン呼ぶ
金色の「金銅冠」

浅間温泉のシンボルマークにデザインされている「金銅冠」は昭和30年、桜ケ丘古墳で発掘されたもの。５世紀中ごろのものと見られ、全国的にも珍しい銅の地金に金をあしらったつくりで県宝に指定された。直径15mの土饅頭形を主体とする古墳からは直刀、まが玉類や鉾（ほこ）、剣なども出土している。

●下浅間の薬師堂

お堂の格天井に美しい
36枚の組み絵

温泉街のまんなかに建つ小さなお堂で、約400年前まで念仏寺があった場所に移転した。現存する建物は天保12年（1841）、木曽の大工により再建されたもので、６×６で36枚の時代絵が組まれた格天井（ごうてんじょう）が見事。繊細な描写で１枚ずつ人物が描かれ、色彩もくっきりと残されている。

松本地域の伝統行事

●青山さま

夏の夜空に
男の子たちの声響く

８月、お盆前の松本市内では、夕食どきに「青山さまだい、ワッショイコラショイ！」と、元気な小学生の男の子たちのかけ声が重なる。杉の葉で飾った御輿（みこし）を担ぎ、はっぴにハチマキ姿で「青山さまだい…」とくり返しながら町内の家々を回り、お賽銭を集める。祖霊信仰から発した子どもの行事。

●ぼんぼん

やさしい旋律で歌う
女の子の祭り

「青山様」が男の子の祭りなら、「ぼんぼん」は同じ時に行う女の子の祭り。幼児から小学生までの女の子が、可愛らしい浴衣姿にほうずき提灯を持ち、歌を歌いながら町内の地区を歩いて回る。優しいメロディーの歌詞は「ぼんぼん　とてもきょうあすばかり…」。夏の夜を彩る風物詩となっている。

浅間の由来

浅間の歴史は、縄文時代の遺跡がこの地域で発掘されていることからも、その古さがわかります。日本書紀には天武天皇の時代の白鳳14年（684年）、「～信濃に遣わして行官を造らしむ　束間の温湯に～」と記されています。また万葉集などに詠まれている浅葉の里、麻葉の湯は束間の湯とともに、浅間温泉の古称だったと考えられています。鎌倉時代には「浅間社」という名前が登場します。松本城を築造した石川数正は浅間御殿湯を造り（現在の枇杷の湯）、湯守を置きました。そして与謝野晶子、竹久夢二など多くの文人墨客にも愛された浅間温泉は、正岡子規や伊藤左千夫からなる「アララギ派」関係の地とも伝えられ、歌碑を巡りながら歴史をたどる楽しみもあります。

浅間温泉街にある道祖神

浅間温泉にはいろいろな道祖神があります。それぞれ形が違うので見比べてみて下さい。

※各道祖神の番号は地図と連動しています。

道祖神は地域の守り神として、五穀豊穣･無病息災･子孫繁栄を祈願し、集落 の境や村の中心、村内と村外の境界や道の辻、三叉路などに主に石碑や石像の形態で祀られています。現在、浅間温泉は上浅間･下浅間と呼ばれていますが、上浅間は、横手、流、山田、倉下、湯坂、下浅間は横町、立町、裏町、庚申町に分かれていました。

❶ 抱肩握手像

❷ 跪座像

❸ 握手像

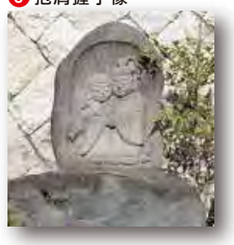
❹ 湯浴像

❺ 祝言像

❻ 繭玉と瓢の像

❼ 湯治像

❽ 抱肩握手像



❾ 衣冠束帯像

❿ 杯と瓢を持つ像